第４回新潟県地域未来戦略有識者会議　議事概要

１　開催概要

(1) 日　　時：令和８年９月 11 日（金）15：00～17：00
(2) 会　　場：新潟県自治会館本館３階 301 会議室
(3) 出 席 者：委員 11 名中、９名出席（うち WEB 出席１名）

２　議事概要

(1)　知事政策局長挨拶

(2)　資料説明

資料２「国のとりまとめ状況について」、資料３「国の地域未来戦略予算について」、資料４「第３回有識者会議以降の修正内容」、資料５「新潟県及び市町村における検討状況」の説明を行った。

(3)　主な委員意見

資料説明後の意見交換における主な委員意見は以下のとおり。

○　これまでの国とのやりとりで把握できた審査のポイントは県内市町村に展開し、一つでも多くの案件が採択されるよう、市町村のプランの構想段階から十分な伴走支援をしていくなど、県としても尽力してほしい。

○　地域産業クラスター計画や地場産業成長プランの趣旨や要点に対する理解度によってプランの内容に差異が生じている。

○　日頃から各地の地場産業を議論している市町村はこのような国の動きがあった時に具体的に対応できる。一方で、国が何らかの形を示してから動きだすところは対応が遅れてくる。国は全国を相手にしているため、優良事例となるよう、常日頃からの足元を踏まえた議論をしていくことが重要。

○　地域未来戦略の話が出る以前から地域や企業で一定の検討がなされていて、取組の内容がイメージしやすい案件が現時点で国から認められているという印象を受ける。

○　ボトムアップ的に各地域が地域資源を有効活用して自分たちの魅力を発揮していく取組はいいことであり、地場でないと気づかない魅力があることから、地域創生という観点からも各市町村からいろいろなプランを出していくことが必要。

○　県内にも魅力ある資源や一次産品は多くあるので、それぞれの産地である市町村で検討するとともに、県からも市町村にアプローチしてもらえるといい。

○　自治体だけではなく民間事業者や金融機関も関わる取組であるため、プランを作成していく上で、関係者の合意形成を同時にうまく進めながら検討していく必要がある。

○　資源が分散された結果として効果が出なくなると意味がなくなってしまうので注意が必要。

○　それぞれの計画の中で目標とする付加価値額、投資額、ＫＰＩなどの項目は、できるだけ具体的にどういう計算でその金額にあったのかということが示されるといい。また、民間事業者の関わりが見えにくいものは書き方を補強するいい。

○　地域の中で下請企業や関連企業あるような中核企業が関与する場合、地域内に波及効果があることを明確に記載して伝えられるといい。

○　フードテックは県の主要産業である食品業界挙げての取組、かつ、新潟県として優位性がある内容なので、産業クラスターとして採択されることが重要である。事業者間の連携や個々の取組の具体化など、より一層内容の充実に取り組んでほしい。

○　新潟県内でも食料や農業に関する学校や学部が増えているため、フードテックに関連するアイディア出しなどで協力できると魅力的な取組がでてくる可能性がある。

以　上